保護者の皆様

令和８年１０月９日
川崎市立平間小学校
校長　石井　芳宏

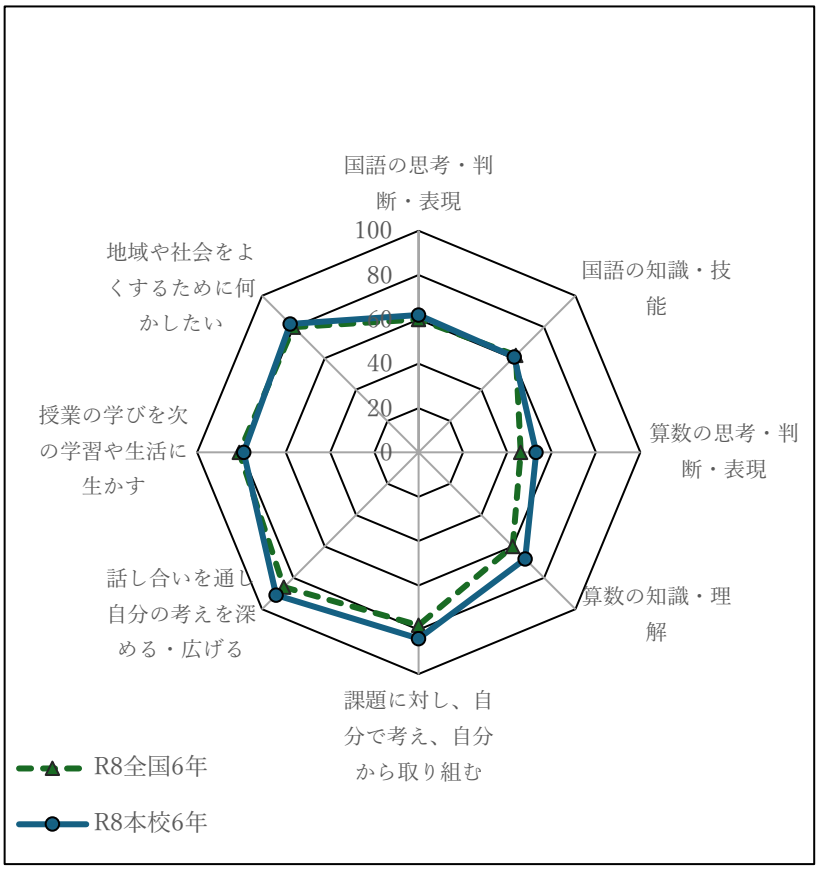
令和８年度　川崎市学習状況調査、全国学力・学習状況調査
結果の概要と今後の取り組みについて

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。４月８日（水）１０日（金）実施の４～６年生対象の川崎市学習状況調査の結果と、４月２３日（木）３０日（木）実施の６年生対象の全国学力・学習状況調査の結果をご報告します。本校では学校教育目標『平間小の子がどこにいても楽しく生き生きとすごすため、自立と共生をめざし平間プライドを育み、未来を創る』の実現に向け、日々の教育活動に取り組んでおり、今後は本調査結果を生かした取り組みをさらに進めてまいります。

なお、本調査によって測定できるのは児童の実態の一部であり、学校における教育活動の一側面ですので、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えください。また、取り組みの様子は、今後も学校だよりや学年だより、学校報告会や説明会等でもお伝えしていきます。

学校教育目標
『平間小の子がどこにいても楽しく生き生きとすごすため、自立と共生をめざし平間プライドを育み、未来を創る』
校内研究テーマ
『SDGｓアクション！誰かのために行動し、生き生きと表現する子』
児童会スローガン
『全力チャレンジ　みんなで協力　笑顔の花咲く平間小』

令和８年度　全国学力・学習状況調査＜６年生＞



意識調査では、「課題に対し、自分で考え、自分から取り組む」について 84%と、全国と比べて６ポイント高い結果となりました。総合的な学習の時間を中心とした探究活動の充実や、SDGｓアクション等の主体的・協働的な学びの成果だと考えられます。「友達との話し合いで、自分の考えを深めたり広げたりしている」という対話的な学びや「地域や社会をよくするために何かしたい」という地域社会への貢献意識が高いことも、その表れだと受け止めています。一方で、「授業での学びを次の学習や生活に生かす」ことについては、さらなる伸びしろが見られます。授業で学んだことを授業の中だけで終わらせず、次につなげたり、日常で活用したりする力を今後も大切に指導していきます。

教科調査では、国語は全国平均と同等、算数は高い結果となりました。特に算数の「思考・判断・表現」は全国を７ポイントも上回りました。答えを求めるだけで終わらず、その過程や考え方を大切にした指導を今後も行っていきます。

令和８年度　川崎市学習状況調査＜４～６年生＞

平間小学校の取り組みから

①子どもの表現力の育成をめざす授業研究

今年度は、国語と総合的な学習の時間を横断的に学んでいくことで、子どもたちの表現力を伸ばしていきます。今回の調査において「国語の授業がわかる」と回答した児童が全学年で約９割（４年：91%、５年 90%、６年 90%）という高い結果でした。子どもの表現力の土台となる国語の学びを、子どもたち自身が実感できていることの表れだと思います。

②子どもの主体性を育てる児童会活動

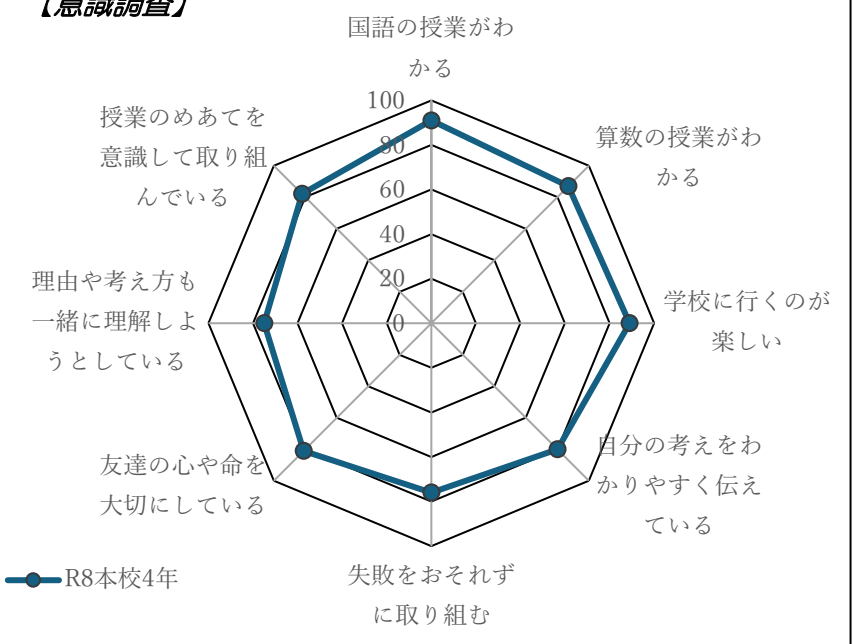
児童会スローガンの中にもある「全力チャレンジ」。「むずかしいことでも、失敗をおそれないで取り組んでいる」という項目では、学年が上がるにつれて低下していく傾向（４年：80%、５年 77%、６年 74%）が見られました。高学年になるにつれ、周囲の評価や目を意識するようになり、「失敗したくない」という心理的なブレーキが働くようになることが推測されます。低学年のうちから小さな失敗と小さな成功を繰り返し体験できるよう、見守っていきます。

③誰ひとり取り残さない児童支援

「友達をばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている」の項目では、どの学年においても８割前後の子どもたち（４年：81%、５年 84%、６年 79%）が肯定的に回答していて、基本的な思いやりの心は根付いていることがわかります。しかし、逆に考えると、２割前後の子どもたちが「できていない」と自分自身を振り返っていることになります。日常の学校生活や授業、行事などの教育活動を通して、お互いのよさや思いやりのある行動を認め合う場面を継続的につくっていきます。

～４年生の報告～

【意識調査】



【教科調査】

	観点	平間小平均	全国平均
国語	話す・聞く	７３．６	６９．６
	書く	５０．８	４９．２
	読む	６０．３	５９．２
算数	思考・判断・表現	５０．５	５０．２
	知識・技能	７６．３	７６．８

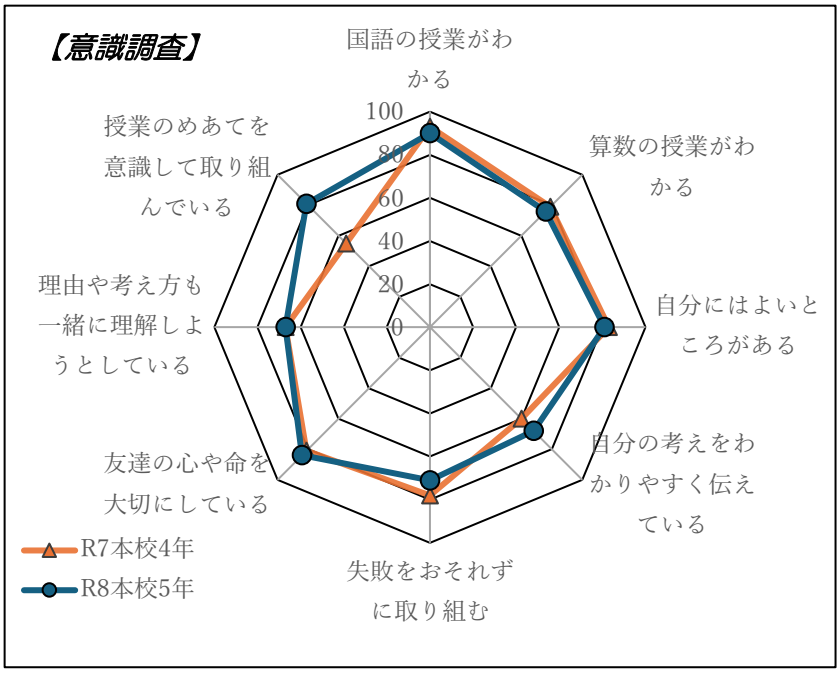
４年生では、学習に対する前向きな姿勢と良好な学校生活がわかる結果となりました。

「国語の授業がわかる」(91%)「算数の授業がわかる」(87%)「学校に行くのが楽しい」(89%) と、どれも高い結果となりました。教科調査の結果を見ても、国語・算数ともに多くの観点で全国平均を上回っていて、日々の学習の成果がしっかりと現れています。

「自分の考えをわかりやすく伝えている」の項目でも 80%の児童が肯定的に回答していて、発信に対して自信をもっている児童が多いことがわかります。国語の「話す・聞く」や「書く」の観点の結果とも結びついています。

一方、課題となるところは、他者との関わりや、より深い理解に向けた姿勢です。「失敗をおそれずに取り組む」(76%) や「友達の心や命を大切にしている」(81%) は、もっと伸ばしていきたいです。また、「主体的・対話的で深い学び」のために大切になる、「授業のめあてを意識して取り組む」(82%)「理由や考え方も一緒に理解する」(75%) もまだ伸びしろがあります。自分の考えを発表して終わるのではなく、根拠や考え方に目を向けさせるような授業を進めていきます。

～5年生の報告～



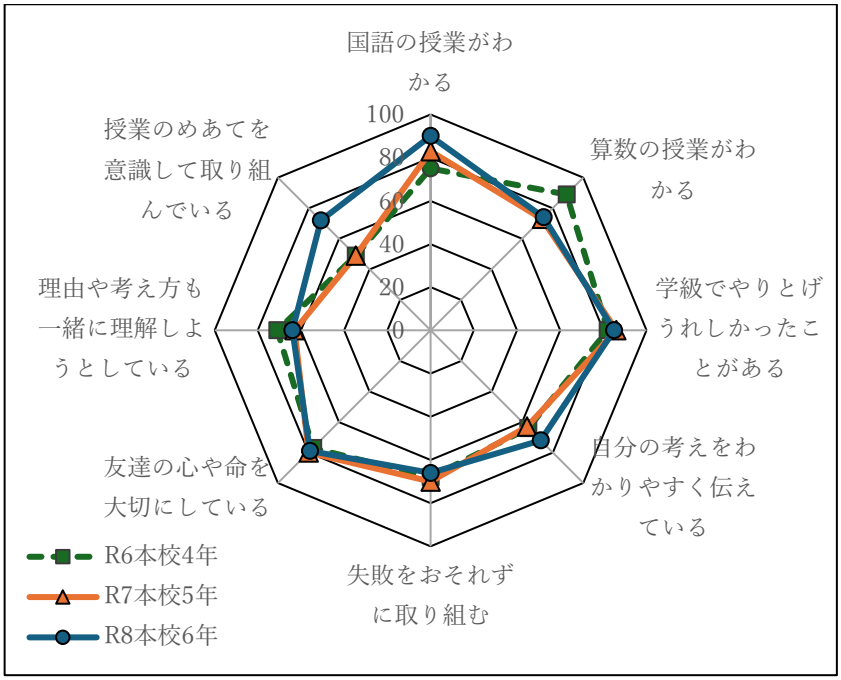
【教科調査】

	観点	平間小平均	全国平均
国語	話す・聞く	８０．０	８０．２
	書く	３８．６	３５．３
	読む	４８．４	４８．１
算数	思考・判断・表現	４８．８	４６．４
	知識・技能	６９．２	６８．５

意識調査では、「授業のめあてを意識して取り組んでいる」と回答した児童が81%で、昨年度の55%を大きく上回りました。これは、昨年度の質問が「その日のめあてを決めて授業や家で学習に取り組んでいる」という文言だったため、「家庭での学習でも」と考えると肯定的に答えられなかった児童が多かったのだと考えられます。授業では、単元やその時間のめあてをしっかりと意識して学習している児童が多いことがわかりました。「自主・自立」という本校の学校教育目標からも、めあてをしっかりともち、それに向かって自主的に取り組む姿勢を認めることで、より育てていきます。

教科調査では、どの観点も全国平均を上回る結果となりました。特に、国語の「書く」、算数の「思考・判断・表現」で高い結果が出ています。自分の考えを表出することを大切にしてきた成果だと言えます。今後も、理由や根拠を伝え合い、学びを深める場面を多く設定し、安心してチャレンジできる授業づくりに努めていきます。

～6年生の報告～



【教科調査】

	観点	平間小平均	全国平均
国語	話す・聞く	７９．３	８０．７
	書く	５０．９	４６．６
	読む	５８．２	５４．６
算数	思考・判断・表現	４８．６	４４．６
	知識・技能	７０．０	６８．８

意識調査の「学級みんなで協力して何かをやりとげ、うれしかったことがある」という項目では、85%の児童が肯定的に回答しています。高学年として全校での行事や委員会などでリーダーシップを発揮する機会が増える中で、「自分たちの力でやりとげた」と達成感を感じている児童が多いことがわかり、うれしく思います。また、「自分の考えを相手にわかりやすく伝えている」の項目では、4年生（64%）、5年生（63%）、6年生（72%）と、4,5年時に比べて伸びています。総合的な学習の時間を中心とした学習活動の中で、自分の考えを発信することを大切にし、今まで経験を積んできたことが、自分自身の力や自信につながっているのだと思います。教科調査の「書く」が全国平均を大きく上回っていることからも、自分の考えを表現する力が伸びていることがうかがえます。

教科調査で全国平均を上回っている算数ですが、「算数の授業がわかる」と答える児童が74%と、4年生から大きく下がりました。算数は学年が上がると抽象度があがり、難しく感じる児童が増える傾向があります。子どもの「わからない」を大切にし、クラス全体で学びを深めていく授業を行い、正解だけではなく思考過程を価値づけ、みんなで認め合えるようにしていきます。